

倫理法人会では九月一日より新年度（平成二十二年度）がスタートしました。早や一カ月が経過しましたが、年度初めに当たり再確認をすべきことがあります。

それは倫理法人会の目的です。役員の方はおもろん、会員の皆様も倫理法人会を構成する一員としてぜひとも心に刻みこみ、日々の実践や活動にブレのないようにしていただきたいと思えます。

その目的とは何か。

「実行によつて直ちに正しさが証明できる純粋倫理を基底に、経営者の自己革新をはかり、心の経営をめざす人々のネットワークを拓げ、共尊共生の精神に則つた健全な繁栄を実現し、地域社会の発展と美しい世界づくりに貢献する」（『倫理法人会規定』）

最初に明記された「自己革新」が、まず取り組むべきことです。皆様は入会后、純粋倫理をどのように学び、学んだことをどう実践に移してきたでしょうか。「倫理は実践によつて成る」「実践なき倫理は雑念に等しい」とも言われます。実践すれば、今までにない良い結果、思いもよらない新しい環境さえも開けてきます。

そのためには、実践する際に「理屈なしに、無条件に」行なうことが肝要です。ゴチャゴチャ思ったり、先のことを心配したり、変に結果を期待したりなど、雑念に溢れていては実践とは言えません。またこのような気持ちで行なつたのでは、決して良い結果は生まれません。

目が覚めたらサツと起きる、気づいたこ



理屈なしの実践が 無垢の幸福を呼ぶ

え・牧えみこ

とはすぐやる、先手で真心の挨拶に徹する、呼ばれたら元気よく「ハイ」と返事をする、約束を守る、後始末をキチツとやる、妻（夫）の話を心から聞くなど、実践の内容は無限です。これらはごく当たり前のことばかりですが、しかしこれを理屈なしに行なつた時に、自己革新の道が開けてきます。

「社員の失敗を自分の教育不足と感じるようになった」「妻の偉大さがわかった」「嫌なことから逃げなくなった」「怒る気持ちが少なくなった」「愚痴がなくなった」「心のコントロールが出来るようになった」「他人と比べないようになった」「頼まれごとを受けるようになった」「仲間の成功を喜べるようになった」「人の好き嫌いが減った」「人のために働けるようになった」

以上は会員諸氏から寄せられた喜びの声のごく一部です。こうした自己革新の波動は、自分自身に留まることはありません。

「同じベクトルで仕事が出来ると雰囲気生まれた」「事業が軌道に乗ってきた」「取引先の信頼が深まった」「夫婦仲が良くなった」「両親に感謝出来るようになった」「子供が明朗に育っている」など、これが同じ人間か、同じ会社か、同じ家庭かと周囲が見間違ふほどに大きく変わってくるのです。

「真に正しい事とは、まず己が救われ、それと一緒に人が救われることでなくてはならぬ」（『万人幸福の菜62頁』）

実践に理屈なし。理屈なしの実践に無垢の幸福が舞い込みます。自己を変え、自他に喜び合える世界を築いていきましょう。